

(熊毛郡中種子町大字納官字園田)

位置と環境

本遺跡は町の中心部から北へ約7km離れた、標高約120mの海岸段丘上に立地している。また、眼下に広がる台地上には、大園遺跡や油久後遺跡といった遺跡も確認されている。

調査の経緯

県営畑地帯農道網整備事業に伴い、中種子町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て平成11年度に確認調査、平成12年度に本調査を実施した。

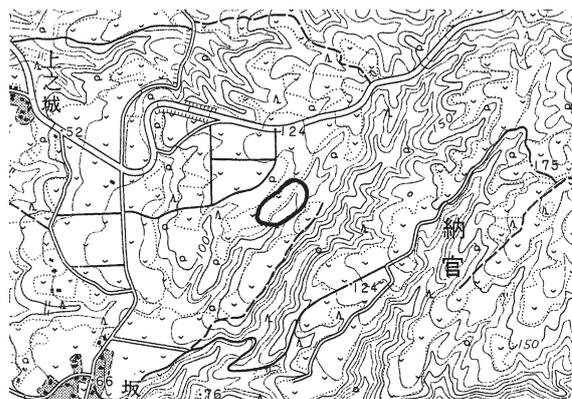
遺構と遺物

平成11年度の確認調査では、アカホヤ火山灰層下から縄文時代早期の塞ノ神式土器・岩本式土器が出土し、その下から石槍の埋納が検出された。石槍の埋納遺構は2.5mほど離れて2基検出され、西側をA群、東側をB群とした。A群からは石槍片13点出土し4本の完形品になった。また、B群からは1本の完形品と石槍片9点が出土し、1本の完形品と3本の欠損品になった。

平成12年度の本調査では、アカホヤ火山灰層の下から縄文時代早期の塞ノ神式土器、岩本式土器が出土した。そして、石槍の埋納遺構が1基検出された。石槍の埋納遺構は、石槍片が2点出土し、1本の完形品になった。

特徴

本遺跡において特筆すべきことは、石槍である。出土した石槍は、層位的には降下軽石層の上部に位



第1図 園田遺跡の位置

置していることから縄文時代草創期以降のものと考えられる。これまで県下の発掘調査で、これに類する石槍が出土した例はない。また、意図的に折ったと考えられるものや部分的に磨くといったものも観察できる。

今後は、石槍の出土状況も含め、石材鑑定などの検討が必要である。また、岩本式土器との共伴関係についても今後検討が必要であり、周辺に同時期に近い三角山I遺跡や奥ノ仁田遺跡といった遺跡が確認されていることから関連性についても十分検討していかなければならない課題である。

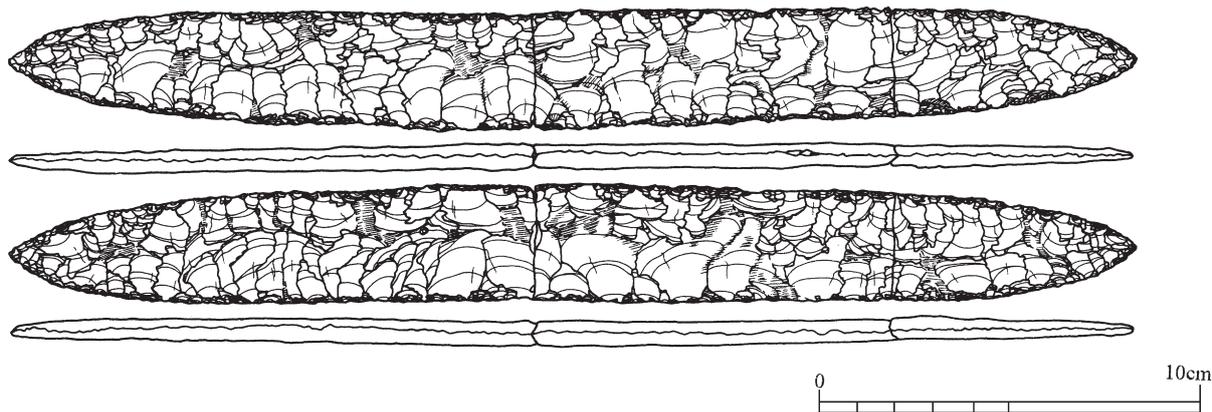
資料の所在

出土遺物は、中種子町立歴史民俗資料館に収蔵されている。

参考文献

中種子町教育委員会2000「園田遺跡」『畑地帯農道網整備事業（星原地区）に伴う埋蔵文化発掘調査事業報告書』

(田平祐一郎)



第2図 園田遺跡出土石槍接合図